

1 都立高校改革のこれまでの経緯

都立高校改革推進計画(平成9～18年度)

生徒の多様化や急激な生徒数の減少等に対応(新しいタイプの高校の設置、学区の撤廃 等)

都立高校改革推進計画(平成24～33年度(2021年度))

- ・ 第一次実施計画(平成24～27年度) ⇒ 都民の期待に応えていくため、計画的に都立高校の課題を解決
- ・ 新実施計画(平成28～30年度) ⇒ 学習指導要領の改訂や高大接続改革への対応、東京2020大会の開催決定等、新たな課題に対応するため併せて長期計画の一部を変更(主な取組: 校内寺子屋の設置、小中高一貫教育校の設置検討、自立支援チームの設置 等)

2 今後の都立高校改革に向けた基本的な考え方

都立高校を取り巻く主な状況

- ◆ AIなど情報技術の革新
- ◆ 学習指導要領の改訂
- ◆ 高大接続改革の進展
- ◆ 平成30年度入学者選抜での応募者数の減少
- ◆ 成年年齢の引下げ(H34)

- ◇ 都立高校を取り巻く状況等を踏まえ、新実施計画の取組を継続し、更に発展させることが必要
- ◇ 社会の変化を前向きに受け止めつつ、自らも学び、成長し続ける意欲をもって主体的に社会に参画し、新しい価値を創造する能力を育成することが必要
- ◇ 生徒・保護者にとって、魅力ある存在であり続けることが必要

新実施計画(第二次)の策定

全ての生徒に個に応じた適切な学びを提供し、本人の希望・適性に応じた進学・就職につなげ、生徒・保護者の期待・信頼に応える学校づくりを徹底

3 都立高校改革推進計画の目的と目標

<計画の目的>

教育基本法の理念を踏まえ、都立高校が生徒を「真に社会人として自立した人間」に育成

<目的を具現化する目標>

目標Ⅰ 次代を担う社会的に自立した人間の育成(教育内容)

「知」「徳」「体」の調和がとれ、社会人としての自覚や働く意欲をもち、グローバル化や情報化が急速に進む社会で活躍できる人間を育成

目標Ⅱ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進(学校設置・課程改善等)

次代を見据えつつ、生徒や社会のニーズを踏まえながら、既存の学科の改善や新たな学校を設置

目標Ⅲ 質の高い教育を支えるための環境整備(教育諸条件)

質の高い教育を実現するため、様々な教育条件や支援体制を着実に整備

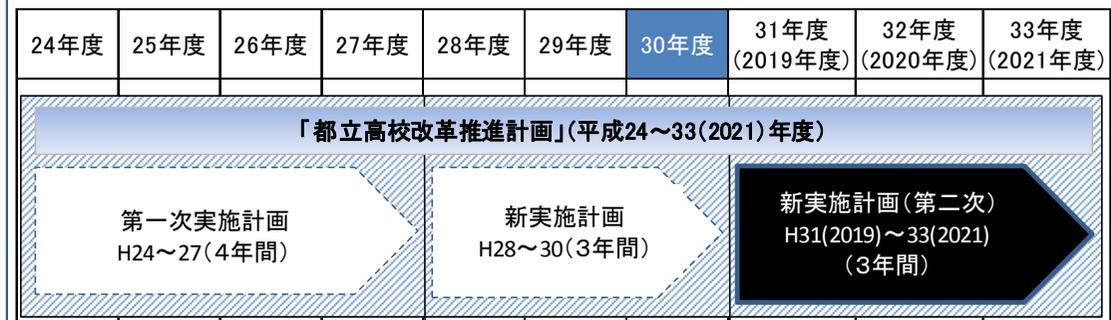
4 都立高校改革推進計画の性格

<計画の性格>

都立高校改革推進計画は、都民の期待に応えるため、都立高校が抱える課題の解決を図り、今後の展望を明らかにする総合的な計画

<「都立高校改革推進計画」と「実施計画」>

都立高校改革推進計画の実現に向けた具体的な計画である実施計画は、社会状況等を勘案しながら3年又は4年ごとに策定



主な取組の方向

目標Ⅰ 次代を担う社会的に自立した人間の育成(教育内容)

社会的自立に必要な「知」「徳」「体」の育成

- **個の状況に応じた学力向上の支援**
義務教育段階の基礎学力の定着が十分でない生徒に対して、「校内寺子屋」「ゆめナビプロジェクト」等により、個に応じた学習支援を充実
- **学びの基盤づくりのための取組の推進**
学びの基盤となる力を全ての生徒が身に付けることができるよう、プロジェクトチームを立ち上げ、学習プログラムを開発するとともに、実践研究を推進
- **都立学校スマートスクール構想の実現に向けた取組の推進**
AI等を活用し、個々の生徒に応じて最適化された学びを実現
- **「理教科」の設置**
理数系の素養と情報活用能力等を併せもつ人材の育成のため、都立初の「理教科」の設置を検討
- **高大連携の推進**
 - ・首都大学東京と連携 ⇒ 大学の教育力・研究力を生かした高校教育の充実
 - ・東京農工大学との連携 ⇒ 世界の第一線で活躍する科学技術人材の育成
 - ・東京学芸大学との連携 ⇒ 将来の東京の教育を担う意欲ある人材の育成
- **教科「人間と社会」の推進**
人間としての在り方生き方に関する都独自教科「人間と社会」により、道徳性を養い行動する力を育成
- **「スポーツ特別強化校」の指定による競技力向上**
複数の運動部が全国大会や関東大会に出場することを支援

目標Ⅱ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進(学校設置・課程改善等)

国際色豊かな学校の拡充

- **新国際高校(仮称)の設置**
幅広い教養を基礎として、海外大学への進学も見据えたグローバル教育を実現
- **小中高一貫教育校の設置**
小学校第1学年からの英語教育等により高い語学力と豊かな国際感覚を備え、世界で活躍できる人材を育成

専門高校の改善

- **G A P 認証の取得と教育活動への展開**
(農業) GAPの取組を通じて、将来の東京の農業を支える人材(農業マイスター)を育成
- **ビジネスを実地で学ぶ商業教育への改革**
(商業) 実践的なビジネス手法やクラウドファンディング等を学ぶ機会を提供し、実務的職業人(ビジネスマイスター)を育成
- **産業高校における新たな類型の設置**
(産業) 東京の「宝物」である伝統工芸や匠の技を継承し、将来のものづくりマイスターになり得る人材を育成

目標Ⅲ 質の高い教育を支えるための環境整備(教育諸条件)

組織的な学校経営の強化

- **学校の魅力向上と効果的な発信**
 - ・ランドデザインの策定、カリキュラム・マネジメントの実施
 - ・「都立高校魅力発掘・発信プロジェクト(仮称)」の実施
- **地域に開かれた学校としての取組の推進**
「地域連携リーディング校」、「地域密着型教育活動推進校」の指定

グローバル人材の育成

- **東京グローバル10の取組**
オンライン英会話の導入等により英語4技能を更に強化
- **国際交流コンシェルジュの活用**
国際交流コンシェルジュの活用により、都立高校と海外の学校との交流を支援
- **都独自の英語教材「Welcome to Tokyo」の活用**
日本・東京の文化・歴史等の理解促進と英語による発信力を強化するため、英語教材「Welcome to Tokyo」の活用を推進

オリンピック・パラリンピック教育の推進

- **ボランティアマインドの醸成**
全ての都立高校に「ボランティアサポートチーム」を編成し、組織的にボランティア活動を推進
- **障害者理解の促進**
障害者理解教育の推進と特別支援学校とのバラスポーツ、芸術・文化交流を展開
- **豊かな国際感覚の醸成**
世界の様々な国や地域の言語・文化等の学習と大使館や海外の学校等との直接交流を促進

社会的・職業的自立意識の醸成

- **主権者意識等の醸成**
成年年齢下げを見据え、社会の形成者として必要な資質・能力を育成

中高一貫教育校の改善

- **中高一貫教育校の改善・充実**
せつさたくま
・中高一貫教育校の特色を生かし、10校が連携して生徒同士が切磋琢磨する機会を創出
・併設型中高一貫教育校では、高校段階からの生徒募集を停止するとともに、中学校段階からの高い入学ニーズを踏まえ、中学校段階での生徒募集の規模の拡大を含めて検討

定時制課程・通信制課程の改善

- **チャレンジスクール等の新設や規模拡大**
 - ・足立地区と立川地区にチャレンジスクールを新設
 - ・既存校の夜間部の規模を拡大
- **ICTの活用による通信制課程の改善・充実**
ICTの活用による通信制の学びのセーフティネット機能の強化

安全で環境に優しい施設整備

- **ブロック塀等の安全対策と体育館等の冷房化**
ブロック塀等の安全対策と体育館等の冷房化を早急に実施

社会の変化に対応した入学者選抜の改善

- **4技能評価を取り入れた英語学力検査の入学者選抜への導入**
受検生の英語4技能を適切に評価するため、スピーキングテストの導入を検討・準備

都立高校等の配置計画・学科の改編等

1 配置計画

新実施計画（平成28～30年度）に基づく取組を継続

(1) 学校の設置

区分	内容	対象校<設置場所>	開校予定年度
小中高一貫教育校	小中高一貫教育校を設置	立川国際中等教育学校	平成34年度(2022年度)
専門高校	商業高校を改編し、家庭・福祉高校(仮称)を設置	赤羽商業高校	平成33年度(2021年度)
	新国際高校(仮称)を設置	<旧東京都職員白金住宅>	未定
チャレンジスクール	商業高校を改編し、足立地区チャレンジスクールを設置	荒川商業高校	平成34年度(2022年度)
	立川地区チャレンジスクールを設置	<旧多摩教育センター>	平成35年度(2023年度)

(2) 閉課程

区分	内容	対象校	閉課程予定年度
全日制課程・定時制課程併置校	夜間定時制課程の閉課程により併置を解消	雪谷高校	平成32年度(2020年度)
		江北高校	平成33年度(2021年度)
		小山台高校	未定
		立川高校	未定

2 学科の改編等

(1) 学科の改編

区分	内容	対象校	改編予定年度
理数科の設置	普通科の一部を理数科に改編	立川高校	平成34年度(2022年度)
水産科の設置	国際科を水産科に改編	大島海洋国際高校	未定
商業科を普通科に改編	商業科を閉科し、普通科に改編	五日市高校(全日制課程)	平成32年度(2020年度)
		五日市高校(定時制課程)	平成31年度(2019年度)

※このほか、多摩地域における理数科の設置の進捗状況等を踏まえ、23区においても理数科の設置を検討

(2) その他

区分	内容	対象校	予定年度
中高一貫教育校	高校段階での生徒募集を停止するとともに、中学校段階からの高い入学ニーズを踏まえ、中学校段階での生徒募集の規模の拡大を含めて検討	白鷗高校・附属中学校 両国高校・附属中学校 富士高校・附属中学校 大泉高校・附属中学校 武蔵高校・附属中学校	未定